

一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン  
Cambodia Mines-remove Campaign

**2011年度 事業・会計報告**

— 2011年4月1日～2012年3月31日 —

**カンボジア事業**

---

- 地雷原跡地における持続可能な農業支援
  - ・ 稲作技術改善トレーニング
  - ・ ため池建設
- 地雷・不発弾危険回避教育のためのラジオ番組「VOICE OF HEART」の制作・放送
  - ・ 「VOICE OF HEART」番組企画・制作・放送
  - ・ 地雷原地域での危険回避教育
- 地雷原の村に建設した小学校・中学校の運営
  - ・ CMCホップイ安倍小学校
  - ・ CMCコーントライ夢中学校
  - ・ CMCTウールポントローみおつくし中学校
- カンボジア現地訪問コーディネーター
  - ・ テレビ局・新聞社の取材コーディネーター
  - ・ 学生・団体の現地訪問コーディネーター

**国内事業**

---

- 一般財団法人化記念式典
- 授業・講演会
- チャリティ事業
- 国際イベント参加
- スタディーツアー
- ハガキ回収プログラム
- 表彰
- 出版

# カンボジア事業



## 地雷原跡地における持続可能な農業支援

プロジェクト概要：

対象地： バッタンバン州モールセイ郡ポツナイ村

期間： 2009年11月～2011年11月

助成： トヨタ財団

ポツナイ村は内戦時、クメールルージュ軍の制圧地域で激しい戦闘があった地域で、内戦終結後の2001年以降、タイの難民キャンプなどから戻った避難民が定住し始めたが、地雷・不発弾に汚染されたままの状態です。村民は生活していません。

CMACが小学校建設を着工した2004年、建設に合わせて村の中心部の地雷・不発弾撤去がCMACにより行なわれたが、撤去作業は学校周辺エリアのみで、現在も地雷・不発弾が村内で発見されるなど危険が残っています。

一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン(以下CMC)は、2004年に安全になった土地にCMCポツナイ安倍小学校を建設。その後も、貯水池建設、貯水タンク設置、教員宿舍建設、学校制服や文具類の提供などを行い、子どもたちが継続して教育を受けられる環境を作ってきました。

ポツナイ村の主要産物は米だが、平均単収は1ヘクタール当たり約1.2トン(2009年：CMC調査)と国全体の平均(1ヘクタール当たり約2.5トン)を大きく下回っていました。世帯収入の低さが子どもたちの就学機会の損失を引き起こしている現状を踏まえ、2009年から農業トレーニングを開始。ポツナイ村の米の収穫高向上と世帯収入の向上、それによる就学率の向上をめざした農業支援プログラムを始めました。

# 稲作技術改善トレーニング

2010年に実施したトレーニングのフォローアップとして週に1度、村内3カ所のデモ農家にて合計28回の講習を行いました。

州農業局のトレーナーによるトレーニングの結果、村全体の米の平均単収がプロジェクト開始前2009年の約1.2トンから2011年は約1.56トンに増えました。また、農民グループを結成したことにより村民同士の情報共有が活発化、相互扶助の動きが見られるようになりました。



稲作技術トレーニングを受ける村民たち

## ため池建設

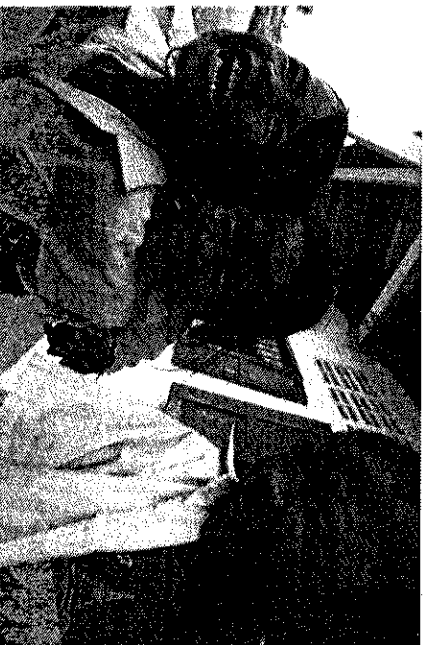
村内2つのコミュニティに共有のため池を建設しました。両コミュニティにはため池がそれぞれあったが規模が小さく水質も悪かったため村民は遠く離れたため池まで水を汲みにいく必要がありました。

農業、生活用水の確保が容易になったことで、今後の生活水準の向上が期待されます。



村民たちの負担を軽減するため建設されたため池

## 今後の課題



大規模な灌漑が整わないと稲作の大きな増産は望めません。そこで稲作だけでなく収入拡大につながる作物栽培、畜産技術の向上が求められています。

子どもたちの就学率向上、退学率削減を達成するために持続的にコミュニティが取り組んでいかなければなりません。農業支援を通じて出来た農民グループをさらに強化して相互扶助の基盤となるよう促進していく必要があります。



## 地雷・不発弾危険回避教育のための ラジオ番組「ヴォイスオブハート」の制作・放送

プロジェクト概要：

対象地域： バッタンバン州、バリエアイ・ミンエンチヤイ州、パイリン州、プリアビピア州  
期間： 2011年5月～6月、2011年12月～2012年3月  
助成： 今井記念海外協力基金

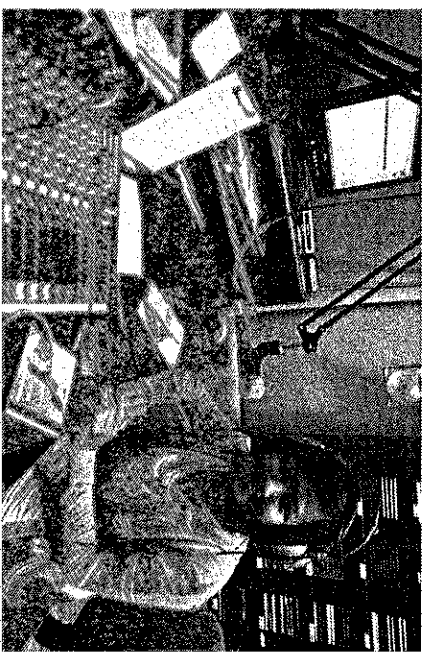
カンボジアは30年近く続いた内戦が終わって10年以上経っていますが、600万個の地雷、700平方キロメートル以上の地雷原が残っているとされており、おとり負の遺産が“ネガティブインパクト”となって人々の安全、生命に脅威を与え開発の障害となり貧困の原因ともなっています。

地雷・不発弾による被害ゼロを目指してCMCIは地雷・不発弾生存者の支援、地雷・不発弾の危険を回避するための教育にラジオを活用しています。番組のメインコンテンツは地雷・不発弾生存者へのインタビュー。彼ら自身の声で思いを伝えてもらうことによりリスナーに共感を持ってもらい理解を深めてもらうのが狙いです。

## 番組放送

地雷・不発弾被害が最も多いカンボジア・タイ国境エリアにおいて、新たな被害を減らすためのラジオ番組「ヴェイヌオグ・ハート」を、バットアンバン州で17回、バビテアイミエンチャイ州で17回放送。番組では、被害者インタビューを通しての危険回避教育をリスナーに向け発進しました。

また、世界遺産であるプリアピア寺院をめぐるタイとの国境争いで子爆弾を無数にまき散らすクラスター爆弾が使用されましたが、爆発に巻き込まれ手足を切断したり失明する被害が相次ぎました。そこで、プリアピア州を中心に、3分のスボット番組を41回と1時間番組を4回放送しました。この放送以降、新たなクラスター爆弾被害は出ていません。



ラジオ番組「ヴェイヌオグ・ハート」の放送現場

## 地雷原地域での危険回避教育

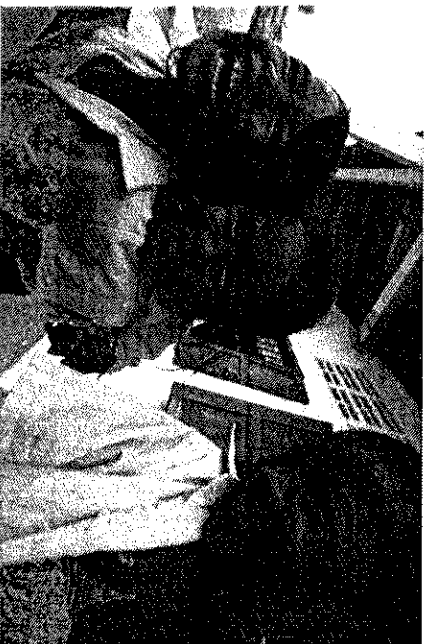
上記のラジオ放送と同時進行で、地雷原エリアの村にも入り、CMAC(カンボジア地雷対策センター)やカンボジア赤十字と連携して、地雷・不発弾事故が最近発生した村で新たな事故を防ぐための危険回避教育を実施しました。

危険回避教育では、地雷や不発弾の絵が描かれたポスターを子どもや母親に見せ、「これらは爆弾なので見ても決して触らないように！」と説明。危険回避教育は、バットアンバン州で2回、バビテアイミエンチャイ州で1回行ない、新たな被害が出ないよう地雷原で生活する住民に注意を呼び掛けました。

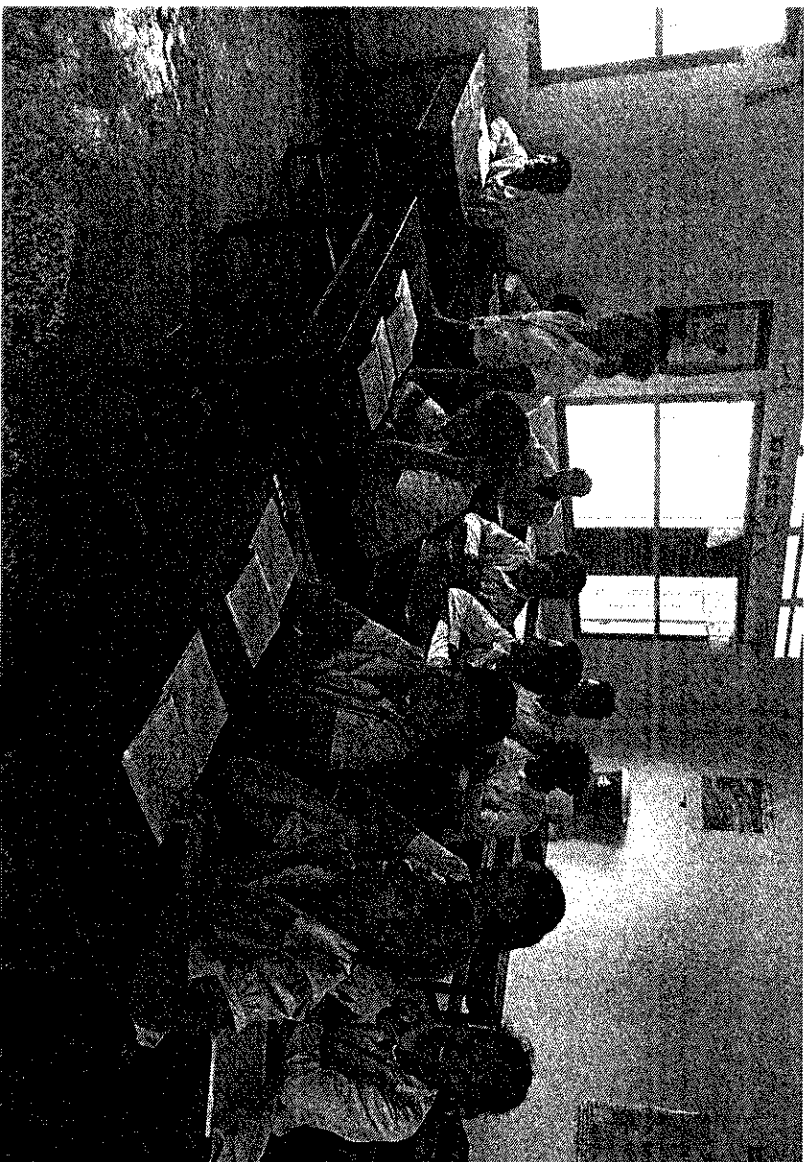


CMACと連携して行った危険回避教育  
小さい子どもを持つ母親などが熱心に耳を傾ける

## 今後の課題



番組取材から得た地雷・不発弾生存者のニーズを受けて、他の施設、団体と連携し医療、福祉、社会サービスを提供するのも重要な役割です。しかし、カウンセラーパートナーである障害者対象の職業訓練施設が資金難のために活動を休止してしまったり被害者支援の状況は良くありません。広く支援の輪を広げていく必要があります。



## 地雷原の村に建設した小学校・中学校の運営

CMCが建設したCMCポツナイ安倍小学校(ハッタソバン州 2004年落成)、CMCコーソトライ夢中学校(ロビンテアイミエンチヤイ州 2008年落成)、CMCトウールポソローみおつくし中学校(ロビンテアイミエンチヤイ州 2010年落成)への教育支援として、2011年度も児童および教職員のための文具提供や貯水タンク建設、農業トレーニンングなどを実施してきました。各学校ごとの取り組みを以下に紹介します。

### CMCポツナイ安倍小学校 —— 生徒数150名 ( 男子68名 女子82名 )

CMCポツナイ安倍小学校のある地雷原ポツナイ村は、CMCが2009年から取り組んでいた農業支援プロジェクトの実施地でもあったので、定期的に学校訪問しながら教師と連携をとって学校運営を行ってきました。また2011年3月には、建設当時に多大なるご支援を頂いた故安倍量基住職(福島県入水寺)の命日に合わせ、ポツナイ村民からの申し出により、学校の児童や教師、村長、村民が集まる追悼式が厳かに執り行われました。



2011年度は18名の卒業生が無事に学校を巣立って行った。しかし貧しさのため、中学校に進学できない子どもが圧倒的に多い



故安倍住職とポツナイ村民のように、支援活動を通して国境を越えた人と人とのつながりを持たせたことはCMCIにとっても大変嬉しいことです



# CMCコーントライ夢中学校 —— 生徒数115名 ( 男子65名 女子50名 )

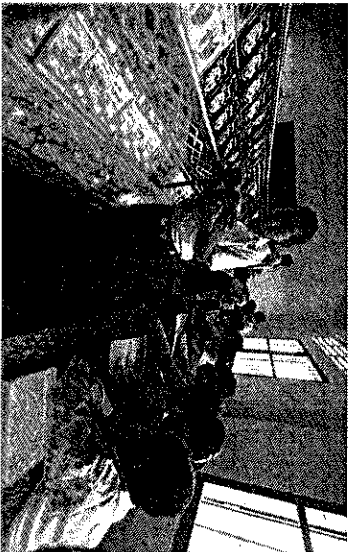
今年度は、福岡の青少年健全育成ボランティア団体ひまわり会のご支援により、校舎横に貯水タンク「ひまわりの泉」を建設し、各教室にセラミック浄水フィルターの設置と衛生教育も実施。これにより、子どもたちがいつでも安心して水を飲める環境を整備しました。また、建設時にご協力頂いた(社)佐世保青年会議所の支援を受け図書室の設置も行い、教育環境をより充実させることができました。さらに佐世保青年会議所メンバーとともに卒業生へ卒業証書授与式も行いました。



貯水タンク「ひまわりの泉」



安心してきれいな水を飲めるようになった



図書室で本を読む生徒たち

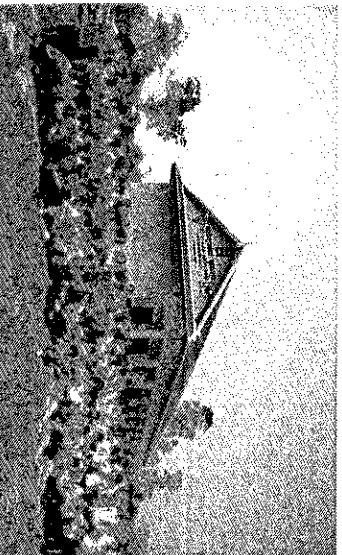


卒業証書の授与式

## CMCトータルポンドローみおつくし中学校 - 生徒数166名 ( 男子73名 女子93名 ) ( KODAMA SCHOOL )

校舎のまわり360度を地雷原に囲まれているCMCトータルポンドローみおつくし中学校では、大阪城東ロータリークラブ様からのご支援により貯水タンクを3基設置することができ、浄水フィルターも設置し、安心して水の飲める環境作りを行いました。

また、学校裏の土地を田んぼとして利用できるよう開墾し、生徒たちが実践的に米の生産を学ぶプログラム



地雷原に囲まれながらも懸命に学ぶトータルポンドロー中学校の生徒たち



新たなプロジェクトに向け、学校裏の土地を開墾するトラクター



## カンボジア現地訪問 コーディネート

CMCでは、テレビ局や新聞社および学生サークルや団体などからの依頼を受け、CMCの活動現場や運営する学校などを訪問する「現地視察コーディネート」を行っています。2011年度は合計5回のコーディネートを行いました。

## テレビ局・新聞社の取材コーディネート

向井理さん主演映画『僕たちは世界を変えることができない。』の公開記念番組として、TNCテレビ西日本など九州6局で放送された番組「カンボジア CHALLENGE PROJECT」の撮影に対し現地コーディネートを行い、CMCコーントライ夢中学校や地雷原訪問に現地駐在員が同行しました。

また、東京新聞および中日新聞のカンボジアにおける地雷被害の現状取材に対し地雷原や被害者インタビューなどのコーディネートを行いました。

(写真)地雷原で取材を行うテレビクルー



## 学生・団体現地訪問コーディネート

学生および団体からは、立命館アジア太平洋大学(大分県別府市)の国際サークル「ハビタットAPU」、(社)佐世保青年会議所、民主県政県議団より現地視察依頼があり、それぞれコーントライ中学校やトゥールポンロー中学校を案内しました。

それぞれ団体のみなさんから、子どもたちへの教科書やサッカーボールなどを贈呈頂きました。ありがとうございました。

(写真)トゥールポンロー中学校の子ども達と交流するハビタットAPUのメンバー





# 国内事業



## 一般財団法人化 記念式典

1998年より民間NGOとして地雷撤去と被害者救済を目指し活動してきたCMCですが、更なる現地支援の強化を目指し、2011年4月1日より一般財団法人として新たにスタートすることになりました。

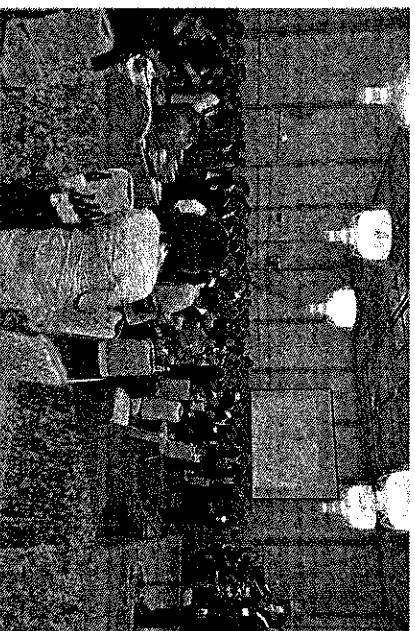
2011年5月29日には、法人化とCMC14年の活動を記した「地雷原の子どもたちと共に」出版を記念した式典・祝賀会を福岡ガーゼンパルスホテルにて催し、これまでCMCの活動を支援頂いた皆様、そして今後のCMCの活動に大きな期待をお寄せ頂く皆様など総勢300名の方にご参加頂きました。

また祝賀会では、3月11日に起こった東日本大震災支援のためのチャリティオークションも開催し、多くの方にご協力を頂きました。

## 授業・講演会

CMC国内事業の中で特に力を入れているのが、小学校から大学までの教育機関から依頼を受ける国際理解授業です。

カンボジアで起こり続ける地雷被害の事を知った子どもたちは、地雷の悲惨さに大きなショックを受けますが、その後「自分たちができること」を真剣に考え、空き缶回収やお米作り活動などを実践し、CMCの活動を支えてくれています。



地雷模型や現地の写真スライドを使っでの授業。子どもたちは真剣な目で話に聞き入る。

## 授業・講演会の実施回数

- 教育機関 …………… 21 回  
(小学校～大学まで)
- 企業・団体 …………… 17 回

## チャリティー事業

---

今年度実施したチャリティー事業のひとつが、ソフトバンクホークスマーケティング㈱との共同事業である「地雷被害者救済チャリティー野球」です。例年好評を頂いている事業で、今年度は、5月31日および6月1日の中日ドラゴンズ戦、9月13日～15日の西武ライオンズ戦のA指定席をチャリティー野球チケットとして販売。企業や学校の社内レクリエーションとして1,000名以上の方にご参加頂きました。

もうひとつは、10月14日に開催したCMC初となるチャリティーゴルフコンペ。当日は雨天にも関わらず56名の方にご参加頂き、また多数の企業のみなさまより豪華賞品をご協賛いただきました。



2011年10月に実施したCMCチャリティーゴルフコンペ

## 国際イベント参加

---

地球市民どんたくやハートフルフェスタなど福岡の国際・人権イベントへの出店、東京グローバルフェスタへの出店など、今年度は7つのイベントに参加しました。ブースでは写真や地雷模型の展示、カンボジア民芸品の販売などを行い、またステージでは、地雷撤去の実演を通して市民へ地雷問題啓発を行いました。

また、福岡のバーやレストランを貸切ったの交流イベントも企画し、計5回実施。国際協力に関心の高い層への啓発にも力を入れました。



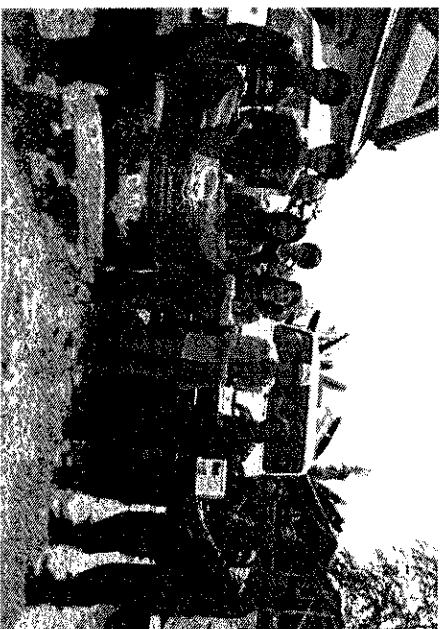
ステージで、地雷撤去の実演を行うボランティアスタッフ

## スタディーツアー

---

1998年CMC設立から毎年実施しているスタディーツアーを今年度も実施しました。第16次となる今年度は、2012年2月19日～28日までの10日間、ポルポト政権時の拷問や虐殺が行われたトウラルスレーン収容所や、地雷犬トレーニンングセンター、MAG地雷原やCMAC地雷原、戦争被害者を無料で治療するエマーゼンシー病院等訪問し、日本で集めた募金のドネーションを行いました。

またCMCが建設・運営している小学校や中学校も訪問し、地雷原に囲まれた校舎で、懸命に学ぶ子どもたちと交流してきました。

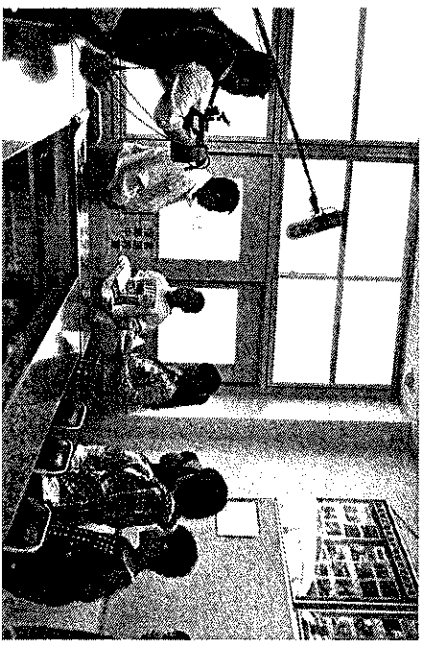


2012年2月 MAG女性デザイナーナーにドネーション

# ハガキ回収プログラム

カンボジアで命がけの撤去作業を続ける女性ナイター(地雷撤去隊員)の支援を目的とした「書き損じハガキ回収プログラム」を2011年12月～3月まで実施。回収BOXを企業や学校など約230か所に設置し、新聞やテレビなどマスコミ各社でも取り上げられるなど多くの方にご協力をいただき、目標30,000枚(約100万円)を達成することができました。

集まったハガキや切手・テレビホンカードは換金し、2月のスタディーツアーで現地へ届けました。



学校内で呼びかけ、集めてくれた書き損じはがきを小学校児童から受け取る大谷理事長。この日はテレビの取材も入った。

## 表彰

日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流をめざす公益財団法人かめのり財団(東京)より、CMCの活動内容やその成果が評価され、「第5回かめのり賞」を受賞しました。

今回は多数の応募の中から6団体・1個人が選ばれ、1月14日(土)東京で授賞式が行われました。



「第5回かめのり賞」受賞者のみなさん  
(左から2人目がCMC大谷理事長)

## 出版

理事長の大谷が設立したカンボジア地雷撤去キャンペーン(CMC)の14年におよぶ活動の軌跡を記した「地雷原の子どもたちと共に」が、2011年5月10日に出版されました。大谷理事長がCMCを設立した経緯から始まり、1人から始めた国内活動がどのようになり、人々を巻き込んでいったのか、またCMC現地プロジェクトである地雷原での小学校・中学校建設の背景などが記されています。

また、2012年2月に学研教育出版から出された「感動する仕事！泣ける仕事！」に、CMC現地駐在員の田中甲斐君の活動が取り上げられました。



(左) 大谷理事長著書「地雷原の子どもたちと共に」  
(右) 学研教育出版「感動する仕事！泣ける仕事！」

貸借対照表

平成24年3月31日 現在

一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン

(単位: 円)

| 資産の部       |           | 負債の部      |           |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| 科目         | 金額        | 科目        | 金額        |
| 【流動資産】     | 2,914,840 | 負債の部合計    | 0         |
| 現金及び預金     | 2,914,840 | 純資産の部     |           |
| 【固定資産】     | 272,000   | 【資本】      | 5,000,000 |
| 【投資その他の資産】 | 272,000   | 基本財産      | 5,000,000 |
| 敷金         | 272,000   |           |           |
| 【繰延資産】     | 1,813,160 |           |           |
| 創立費        | 1,813,160 |           |           |
| 資産の部合計     | 5,000,000 | 純資産の部合計   | 5,000,000 |
|            |           | 負債及び純資産合計 | 5,000,000 |

損益計算書  
自平成23年4月1日  
至平成24年3月31日

一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン

(単位: 円)

| 科 目          | 金 額        |            |
|--------------|------------|------------|
| 【売上高】        |            |            |
| 売上高          | 20,993,907 | 20,993,907 |
| 売上高合計        |            |            |
| 【売上原価】       |            |            |
| 当期商品仕入高      | 4,802,490  | 4,802,490  |
| 合 計          | 4,802,490  | 4,802,490  |
| 売上総利益        |            | 16,191,417 |
| 【販売費及び一般管理費】 |            |            |
| 販売費及び一般管理費   |            | 17,888,985 |
| 営業損失額        |            | 1,677,568  |
| 【営業外収益】      |            |            |
| 受取利息         | 547        |            |
| 雑収入          | 143,738    |            |
| 営業外収益合計      |            | 144,285    |
| 経常損失金額       |            | 1,533,283  |
| 税引前当期純損失金額   |            | 1,533,283  |
| 当期純損失金額      |            | 1,533,283  |

販売費及び一般管理費内訳書

自 平成23年4月 1日  
至 平成24年3月31日

一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン

(単位: 円)

| 科 目          | 金 額       |            |
|--------------|-----------|------------|
| 給料手当         | 6,055,009 |            |
| 雑給           | 427,600   |            |
| 法定福利費        | 1,667,949 |            |
| 福利厚生費        | 8,557     |            |
| 外注費          | 85,000    |            |
| 荷造運賃         | 62,760    |            |
| 広告宣伝費        | 34,475    |            |
| 接待交際費        | 118,678   |            |
| 会議費          | 179,276   |            |
| 旅費交通費        | 1,045,880 |            |
| 通信費          | 481,348   |            |
| 消耗品費         | 176,432   |            |
| 事務用消耗品費      | 156,502   |            |
| 修繕費          | 268,076   |            |
| 水道光熱費        | 79,369    |            |
| 新聞図書費        | 7,036     |            |
| 諸会費          | 89,000    |            |
| 支払手数料        | 3,370     |            |
| 車輦費          | 131,277   |            |
| 地代家賃         | 875,602   |            |
| 賃借料          | 261,050   |            |
| リース料         | 605,051   |            |
| 保険料          | 184,725   |            |
| 租税公課         | 36,900    |            |
| 支払報酬         | 240,000   |            |
| 現地活動費        | 3,955,675 |            |
| 雑費           | 632,388   |            |
| 販売費及び一般管理費合計 |           | 17,868,985 |